

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
学力の向上	基礎・基本の確実な定着と、一人一人のよさを生かす教育	・個別最適な学びと協働的な学びの住還を実現し、基礎・基本の確実な定着を目指した指導の充実	・教員の専門性を生かした教科担任制や習熟度別学習指導、少人数指導等、指導体制・指導方法の工夫を行う。高学年における家庭学習の在り方を学校全体で考える。	・各学年、学年・学級の状況を加味して、教科担任制を見据え、一定の教科等において学年の教員全員でクラスを交換したり編成しなおしたりすることで、子供たちの成長を多角的に見守る体制づくりができた。高学年の算数の少人数習熟度別学習については、1年間、教員が配置できず、学級による指導となった。 ・低学年は、家庭学習の習慣はおおむね定着している。高学年は、学習塾へ依存が高くなってきて、家庭学習というよりは塾の宿題に追われているようになっている。 ・ICTを活用した授業の充実が徐々に浸透してきた。	B	・学級数が多いというメリットを生かし、それぞれの担任が、自分の専門性を生かし、教科等によって違う担任が授業を行うなど「誠之の学年運営スタンダード」として弾力的な学年経営を積み重ねていく。 ・習熟度別に学べる少人数算数指導を、次年度も3年生以上で継続する。(人員の確保が課題) ・高学年における家庭学習の在り方を検討していく。 ・ICT機器を活用した授業改善を今後も継続的に行う。
		・「分からないことが分かる楽しさと喜び」を体感できる授業の充実	・すべての児童の学習を保障し、教員が「教える」授業から「児童が学ぶ」授業への転換するとともに、子供の「分からない」を引き出し、「分からないことが分かる楽しさと喜び」を体感させ、振り返りを大切にした授業の充実を図る。	・年度末のアンケート調査で、「説明や指示が分かる」と答えた割合が9072%、「授業に進んで参加した」児童は90.2%とどちらも9割以上の児童が、授業に対しての意欲や内容の理解も十分に達成できている。 ・研究推進部を中心に授業研究を進め、指導のPDCAサイクルの日常化が進められた。特に体育科の学習においては、児童同士の学び合いの手法を、他の教科へ横断的に取り入れることができてきている。	A	・『「分かる・できる楽しさと喜び」を体感できる授業」に向け、引き続き、計画・実施・評価・改善を行っていく。 ・校内研究・研修を通して、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、基礎・基本の確実な定着を目指した指導を充実していく。
		・個のよさを生かす教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を図るとともに、ICT機器・教材を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組む。また、一人一人の子供に寄り添った特別支援教育の充実を図る。	・校内研究を進めていく過程で、ユニバーサルデザインに立った授業の構築を教員が考えるようになってきた。 ・校内支援委員会が定期的に開催され、教職員で個別最適な児童支援の在り方を考えられるようになった来た。 ・ユニバーサルデザインの授業を行う際に重要なICT(タブレット)の活用が増えてきて、一人一台のタブレット端末を活用することが、子供たちの主体的・対話的で深い学びに結びついてきた。	A	・子供一人一人の視点に立ち、ユニバーサルデザイン化された授業改善に努めていく。 ・校内支援委員会等、特別支援教育に関する考え方を学校全体、教職委員全体で研修を積み重ねていく必要がある。 ・今年以上にICTを活用し、対話的な活動の時間をより多く確保していく。
		・SDGsの視点に立った教育活動の展開	・持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちへの質の高い教育の実現に取り組む。地域の人材を活用した出前授業の充実を図る。	・デフリンピックの観戦やデフリンピアンの出前授業など、SDGsに関わる出前授業等を充実することができた。 ・街探検など、地域の方を講師として招いた取組を例年以上に充実させることができた。 ・総合的な学習の時間や各教科において、防災や共生社会などのテーマに取り上げた学習に取り組み、興味・関心を高めることができた。	A	・今年度の出前授業等の講師については、今後も継続していけるように、取組内容を精査し、年間指導計画に位置付けて、誠之の小ならではの取組として高めていく。 ・地域の人材バンクを本校独自に作成していくことを検討する。
		・学力を保障し、心の安定を図るための体力の向上	・体育科の学習の研究を通して他の教科の授業改善に取り組み、子供の学力の向上に繋げ、子供たちの心の安定を図れるようにする。	・教員の研究授業(校内研究の授業、指導教諭の授業、区や都の研究会等の公開授業)が大変充実し、体育科だけではなく、他教科の指導へも転用して授業の充実が図られた。 ・体カテストの取組を充実させ、都の平均を上回る成果を出した。	A	・校内研究等の公開授業の際、その立案過程も含めて、日頃の授業を互いに見合いながら、教員同士が切磋琢磨できるような環境を整え、すべての児童の学力向上、心の安定につながるようにしていく。
	ONLY ONEとしての誠之小学校	・新しい学校の創造と適正な運営	・地域・保護者の声を反映させた学校運営をするべく、「学校運営協議会」の際に具体的な取組を提案し、よりよい教育活動を考えられるように充実を図る。また、150周年の記念式典・祝う会等を通して、子供たちの学校への所属感や地域への愛情を育む教育活動の充実を図る。	・学校運営協議会年間12回を実施した。 ・150周年記念の式典及び祝賀会では、保護者・地域等の皆様のご協力により、大変充実した内容で終えることができた。 ・学校運営上の課題を委員に伝え、様々な意見をいただき、学校運営に生かすことができた。	A	・開校150周年に向けて取り組んできたことを、今年1年で終わらせるのではなく、引き続き、児童の教育活動の充実のために取り組んでいきたい。
		・「子供を育てる」学校から「子供が育つ」学校としての取組の充実	・知識を教えるだけでなく、子供自らが主体的に取り組み、自ら育つための基盤づくりを実施する。また、異学年交流の推進を図り、特別活動の充実を図る。	・特別活動研究している教務主任が特別活動の充実を図るべく、OJT研修を行うなど、集会活動、クラブ活動、委員会活動の充実を図り、全校で集まる場の設定を増やすことで、全校共通理解のもとに、取り組むことができた。特にクラブ活動は、クラブの設立から自主的な活動となるよう工夫した。	A	・今後も学校全体で児童が認め合い、高め合う行動力をもつリーダーとなるような人材の育成を図っていく。 ・特別活動に関しての研修の充実も図っていく。 ・集会活動や児童が主役になる特別活動の充実を図り、子供たちが主体的に取り組めるようにしていきたい。
		・「人のよさを認め合い、高め合う子供」をテーマとする校内研究の充実	・コミュニケーション力の育成を中心とし、「協働して学ぶ子～体育授業を中心として～」をテーマにした校内研究を充実させ、子供一人一人の思いや考えを伝え合う活動の充実を図る。	・音楽など様々な講師を招いて、ブロックごとに教科を決めて、「協働して学ぶ児童」を意識した授業研究を全学年実施することができた。	A	・授業で「協働して学ぶ児童」の姿は多くみられるようになったので、学習だけでなく普段の生活の場面でも生かせるように来年度も研修を推進していく。 ・研究の中心となる教科について検討していく。
		・特色ある活動の継続実施	・「のびゆく誠之」「誠之カルタ」といった副読本等を活用した指導を行い、150周年に関わる教育資源の開発と伝統を継承する。「日本人としての自覚と誇り」を育み、愛校心を高める。	・今年度も、各学年で期間を決めて、「誠之カルタ」を使ったカルタを実施し、児童が伝人権尊重を学んだ。 ・運動会、展覧会、集会活動等において、開校150周年の意識を高め、学校の歴史に触れ、学校創設の意義を考えることで、今まで以上に愛校心を高めることができた。また、福山誠之館高等学校との交流会も行うことができた。 ・開校150周年行事の円滑な実施に向け、学校運営協議会、学友会、PTA、地域学校協働本部との連携を密にして準備を進めることができた。 ・地域学校協働本部がPTAの親子〇〇教室を実施した。 ・邦楽鑑賞教室、和太鼓体験、鼓体験、狂言の授業や、給食にて和食の日を実施した。	A	・引き続き特色ある教育活動を実施していくため、予算を学校力向上パワーアップに組み込み確保する。 ・今後、150周年後にも、児童の愛校心を高めていくための施策を考えていく必要がある。そのために、学校運営協議会、学友会、PTA、地域学校協働本部との連携を密にして、地域の人材を生かした活動を充実させていく。 ・福山誠之館高等学校との交流会は、今年を機に、今後も続けていけるように計画していく。
		・義務教育9年間を見通し、学習規律の徹底を図る教育活動の充実	・幼小中の連携研修会を充実させ、幼稚園から小学校、小学校から中学校間の小1ギャップ、中1ギャップを軽減し、円滑な接続を行えるようにする。また、年2回の個別懇談を有意義に活用し、学校と家庭が連携して子供たちの成長を見守るようにしていく体制を整える。	・保護者面談を年に2回行い、キャリアパスポートについては、担任と保護者で確認することができた。 ・第一幼稚園の研究発表会に全職員で参加し、幼稚園教育の重要性と具体的な取組を理解でき、大変有意義であった。 ・保幼小中の教員研修の協議を充実させた。 ・小1ギャップを無くす取り組みとして、幼稚園、保育園の教員を招いて、実際に授業等の様子を見てもらう取り組みを行った。	A	・自身の成長を振り返ることができるキャリアパスポートを今後も活用する。確実に保管し、受け渡ししていく。 ・保幼小中の連携は年々進んでいる。今後、小・中間の小1ギャップを軽減するための活動の充実を図っていきたい。 ・年2回の保護者面談を有意義に活用し、学校と家庭が連携して子供たちの成長を見守るようにしていく。
豊かな人間性の育成	豊かな心と社会性を育む道徳、生活指導	・子供の生命・安全・健康への十分な配慮と安心できる居場所づくり	・避難訓練を充実し、子供たち自らが安全を確保することのできる基礎的な資質・能力を育成する。さらに、全ての子供が自己肯定感を高め、存在感をもてる教育の実践を行う。	・感染症(コロナ・インフルエンザ等)については、校内では引き続き、対策は行っている。(手洗いの励行など) ・避難訓練を月に1回実施した。また、予告なしの訓練や防火扉を開けての訓練など、避難経路の変更、卓上訓練など、様々な取り組みを行い、自分の身は自分で守ろうとする意識と技能を高められた。また、校舎完成に伴い、避難経路等の修正、変更等をしっかり行うことができた。	A	・引き続き、避難経路等について全教職員で確認し、修正していく。 ・安全に対する意識を児童、保護者、教員がそれぞれ意識できるような活動を実施する。 ・児童の生命・安全・健康を守っていくため、敷地内の見回りや区への報告等を実施していく。
		・自己決定を大切にした自律心を育む生活指導	・子供の視点に立った「誠之のきまり」による自律的な活動を奨励し、「誠之の心得」の共通理解に基づく生活指導を通して、自ら決まりの意味を考えて行動できる児童の育成に努める。	・開校150周年を記念して、「誠之人道」の意味(誠者天之道也 誠之者人之道也)を各教室に掲示し、その意味を学年の発達段階に応じて、児童がよく理解し、意識できるようにしたこと、児童の愛校心が高まり、少しずつ行動に現れてきた。 ・よい行為をする児童を全校朝会や学級の会で称賛し、広めることができた。	B	・新校舎での学校生活に即した決まりを引き続き、構築できるよう、検討を重ねていく。 ・「誠之人道」の精神を来年度以降も児童に伝えていく必要がある。 ・児童自らが考えて行動したことを大きく評価し、プラス思考の生活指導に取り組む。
		・心にゆとりをもった楽しい学校生活と好ましい人間関係の構築	・子供を褒める3要素(結果より過程を。自分よりも人のことを。模倣・空論より創造・実践を)叱る3基準の励行(人権、生命、迷惑)を実施する。	・褒める3要素を意識した生活指導を実践することができた。 ・スクールカウンセラーによる5年生の全員面接を実施した。 ・いじめの早期発見解決に向けて、児童へのアンケートを実施した。 ・いじめの事案に対しては、すぐに、学校いじめ対策委員会を開き、学校としての方針を確認したり、金曜日の夕会では、その都度、学校全体で共有して対応することができた。 ・担任と学年主任、学年主任と生活指導主任、生活指導主任と主幹教諭といった組合せで、様々な案件に組織的に対応し、児童にとってよりよい成長につながるようになった。	A	・いじめの兆候を見逃さないよう、教職員のアンテナを高くし、今後も事前指導に力を入れる。 ・学校いじめ対策委員会を今後も随時開催し、学校全体で共有、指導できるような体制を構築していく。 ・保護者との連絡を密にし、問題解決に向けて協力する態勢をとっていく。
		・社会性と思いやりの育成	・ボランティア活動、環境保全にかかる活動等を保護者や地域の方々と実施することで、地域に開かれた学校を目指し、地域人材を活用しての出前授業やボランティア活動等を実施し、児童の社会性を育てる。	・能登半島沖地震に関わる募金活動を計画委員会を中心に実施した。 ・各教科、総合的な学習の時間における出前授業が大変充実した。 ・PTAが第1回目の土曜授業公開において、希望者へのリサイクルウェアの配布を行った。 ・PTAが行っていたベルマーク運動について、点数計算を委員会の児童にお願いすることで、自分たちで行うという意識付けが高まり、ベルマーク運動への意欲へと結びついてきた。	A	・ボランティア活動を、生きた教材として充実できるよう今後も推進していきたい。

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
地域との連携	子供たち・保護者・地域に開かれた誠之小学校	・家庭・地域から親しみと信頼を得て、誇りに思われる学校	・学校経営方針・教育内容・方法、日常の子供たちの活動状況をHP等を活用し積極的に広報・公開できるように徹底する。さらに、地域の力を活用した授業及び校外学習の推進を行う。	・学校だより、保健だより、給食だよりを毎月発行した。学年だよりは毎月に加え、長期休業日前や行事実施前にも発行した。さらに、学校に届く様々なチラシやお知らせ等についても、Home&Shoolの配信により、ペーパーレス化を進めることもできた。 ・日々の教育活動を学校ホームページでその都度配信することができた。	A	・引き続き、ペーパーレス化を順次進めていく。 ・学年ごとのホームページ更新を校務の一つに位置付け、分掌化することで更新回数を多くする。
		・学校関係者評価の充実による学校評価の実施	・より地域に密着した学校となるよう、地域の学校評価、保護者の学校評価、児童の学校評価、教職員の学校評価それぞれを比較して、次年度の教育課程に適切に反映させる。	・学校関係者評価委員会を2回実施することができた。 ・学校評価の結果を公表する。	B	・学校関係者評価委員会や学校運営協議会の意見を教育活動に反映していけるよう、次年度も広く意見を聴取する。
		・地域学校協働本部、PTA、誠之学友会、町会等の諸事業への積極的参加	・地域に根差した教育の推進と地域行事等への積極的参加を、児童・保護者・教職員に促進する。	・規模や時間を工夫しながら、親子〇〇教室、こどもひろば、外国語支援(A C)、図書館支援などを実施した。 ・授業支援として「誠之応援団」を活用し、授業のお手伝いを広く呼びかけ、多くの保護者の方にお手伝いしていただいた。 ・NPO法人「えこお」と連絡・調整をし、放課後全児童対象事業を実施した。 ・おはなしの森は、担当者と学年主任(学年担当)が綿密に連携し、充実した読み聞かせ活動ができた。	A	・引き続き「誠之応援団」の協力のもと授業のお手伝いを募って、授業の安全管理を深めていきたい。そのために年度当初に年間計画を作成し、計画的にボランティアしていただける保護者の肩にお願いできるようにする。 ・図書ボランティアがとても充実した活動となってきた。読み聞かせ(おはなしの森)も同様に充実し、児童の心の健全な育成を図っていく。
教育環境の整備	施設・設備の効果的活用と児童に働きかける教育環境の整備	・校舎、校庭、校内施設・設備の計画的・効果的活用	・児童の安全や学習環境を整えるために、学校内の環境整備を教育委員会と教職員がともに連携し、校舎・施設・設備の改善・修正を徹底して行う。	・体育の用具等環境整備の充実を図るため必要な物品の購入を進めることができた。 ・開校150周年に向けての学校の様々な遺産を校長室、校歴室、校内外の校内整備を学友会と協力して進めることができた。	A	・今後も必要な物品の購入を学務課と連携し、進めるようにする。また、校歴室は、地域・学校関係者の思いを反映して学友会と協力して整備していけるように努める。
		・教材・教具の創造・開発・活用	・教育効果を高めるため、身近な事柄を取り上げたり、子供の興味・関心等を生かしたりするなどの創意工夫をする。	・教育効果を高めるために、学年内の連携、教科担任制の充実、ICT機器を活用した教材の利用を進めることができた。ただ、教科担任制の充実には学年によっても様々な課題があがった。 ・校内の研究推進、授業関係のミニ研修を充実させ、教材・教具の開発を進めた。	B	・今後も人材の確保を年間を通して行い、より柔軟で効果的な教育活動を推進できるような体制づくりに努める。 ・引き続き、研修の充実を図り、実感を伴った理解につながるよう、教材・教具の開発・活用に努めていく。
		・清潔でさわやか、しかも子供たちに働き掛ける教育環境の整備	・児童による日常の清掃活動の充実を図り、児童自ら、自分の学ぶ環境に対して、居心地、学び心地のよい教育環境にしようとする意識をもてるようにさせる。	・担任や看護当番による生活目標周知が全校朝会をしっかりと行うことで、今まで以上に周知徹底できた。 ・管理職と保健室の連携が深まり、首から上のケガや学級閉鎖等の対応をスムーズに行うことができた。 ・生活指導部を中心に、休み時間、清掃活動など、学校生活全般において、今までの決まり等を吟味し、より今に合った生活様式にするべく改善を進めることができた。 ・様々な要望、学校内で起こった事象について、生活指導部や運営委員会等で確認し組織的に対応した。	A	・引き続き、児童の基本的な生活習慣の改善を進める。 ・学級の欠席者の状況を担任、学年主任、養護教諭、管理職がしっかりと把握し、事前に対応できるような態勢を整える。 ・学習、生活、タブレットの学校独自のきまりを浸透させる。さらに来年度は、保護者向けのきまり、パンフレットを作成し、浸透させていきたい。 ・清掃の仕方を学校全体で統一し、児童自ら教育環境を整えるという意識を向上させる。
		・GIGAスクール構想が実現されることを最大限生かした学びの質の向上	・ICTの利活用のための基盤の整備を教育委員会と協力して行う。 ・授業での活用の他、児童の情報モラルの向上や、情報活用能力の育成を図るような授業を実践する。	・授業以外にもタブレット端末の日常的道具化を目指し、多くの授業・活動で取り入れることができた。子供の情報活用能力は高まった。 ・情報モラルは、子供たちにさらなる周知を図る必要がある。 ・教員のスキルを上げるため、ICT支援員等を活用し、リ研修を重ねることができた。	B	・情報モラル教育は、誠之独自のスタンダードとして、指導内容をまとめ、その内容を推進し、子供たちのICTに関する危機管理能力を高める。 ・引き続き、通信環境を整備に伴い一人一台タブレットのより安定した動作につながるよう充実を図るようにする。
組織力向上	組織の活力につながる効率的、効果的な学校事務・校務分掌	・最小の予算で最大の効果をあげ得る予算執行	・予算の重点的配分、計画的執行、節約等の実施を行う。	・学校力向上パワーアップ事業の執行率がなかなか上がらなかった。	B	・使用していないときの教室の消灯、印刷部数確認、ペーパーレス化をより意識していく。 ・先を見通した予算案を立て、日頃より、必要な物品について、学校全体で把握するように努める。 ・学校力向上パワーアップ事業の執行率を上げるために2年後の教育課程を見越した予算配分を考えるようにする。
		・組織の一員としての当事者意識の醸成と組織の問題解決力向上	・互いの信頼関係に基づいた校務運営を実施する。また、課題等については、学校の組織力を生かして解決を図るような体制づくりに努める。	・学級の指導や校務分掌を行う際に、一人で抱え込まずに組織で動くことを意識できるようになってきた。	A	・引き続き、組織的な対応を意識できるようにし、それが校務改善や働き方改革に繋がるようにしていきたい。
		・業務を見える化するとともに、会議を精選し、時間を有効に使う校務の効率化	・開始時刻の厳守励行・事前資料、簡素提案、効率審議・報告事項、協議事項の明確化と電子会議化を行う。	・Home & Schoolや校務支援システム(C4th)による、情報発信が定着した。 ・運営委員会、企画会、職員会議において電子データの活用が定着した。 ・職員会議等、必要最低限の回数の会議を開くようになってきた。	B	・Tサーバー、Uサーバーの活用について、教育委員会と連携して、業務改善につながるような使用方法を構築していく。 ・引き続き、会議精選をしなければならない。教務でそれぞれの会議の時間設定を確認し、 unnecessaryな会議はなくしていく。
		・OJT実施体制の充実による「教育のプロ」としての教員の指導力の向上	・校内における気付きを基にした業務改善に取り組む自立型人材育成を図る。	・指導教諭1名が模範授業を3回実施し、本校教員も多数参加して授業力向上につなげた。 ・各種研修、教職員研修センターが催している研修への参加を進めることができた。また、教師道場、区小研での研修の充実が、授業改善を進められるような下地としてできあがってきた。	B	・ねらいの明示、協働学習の設定、学習の振り返りという展開を意識させ、授業改善に取り組ませていく。
		・サービスの厳正(勤務時間、研修、文書・現金管理等)	・服務事故防止に向けた意識や自覚を一層高め、学校教育に対する信頼向上への不断の努力を行う。	・都内の服務事故情報を共有し、事故防止意識の向上に努めた。 ・服務事故防止研修で、不適切な指導や情報管理、性暴力等喫緊の東京都教育委員会の示している課題について意識を深めた。	A	・報告・連絡・相談を今後も徹底し、服務事故防止に努めていく。 ・互いに見合い、支え合える環境を今後も大切にしていく。

評価基準 A:十分な成果があった B:成果があった C:改善した方がよい (D:改善を要する)

<学校の自己評価及び関係者評価を踏まえた教育委員会への要望事項>

- 1 緊急を要する事項
- ・教科担任制や少人数指導の充実を図るための、教員の確保が学校だけではなかなかできない。

・語学力が不十分なまま海外から転入してくる児童について、今後、施策の様々な検討・改善が必要である。
- 2 財政面
- ・他校よりも、児童数、学級数が多いことを考慮した予算配分をお願いしたい。
- 3 人事面
- ・教員の確保と、特別支援教育担当指導員の追加配置、バリアフリーパートナーの追加配置、日本語指導員等の追加配置をお願いしたい。
- 4 設備面
- ・校内の環境整備が必要となることが多々あり、今後、児童数が増減する可能性も視野に入れて、設備の整備が必要である。
- 5 その他
- ・教職員の働き方改革の点から、土曜日・日曜日の活動を減らせるような取組を進めてもらいたい。